



12年前日記

2000年2月1日（火）

山田夫妻

【2000年2月1日(火)】*2012年2月1日(水)記

朝9時30分起床。昨晚の俺ったら何やら、明日こそは朝イチで難民キャンプを絶対目指すと宣言しちゃってましたね、クスッ。いえいえ、こっちの嘲笑です。まあ、世間様で朝イチが何時から何時の間なのかって議論は一旦置いておくとして、とりあえずアレ、ちょっと中止ね。

ちょっと中止というか、ちょっと延期かな。アレってなに？ うるさい、アレったらアレなの！

とにかく朝から重大な見落としが発覚したわけ。この話も一旦置いておいて、とりあえず水シャワー部屋に4連チャン決定！（180B）。

10時30分、ガバガバ鍵穴バイクでホテルを後にする。ひたすらガソリンを使い切ることに全力を尽くすべく、メソトの街中をグルグルし始める。うんうん、こういう地道な努力がいつか大輪の花を咲かすんだい。

もう辛抱たまらん。時系列を追って説明しよう。昨晚の夕食後、その場のノリで思わずガソリン代をケチって早々にホテルに引き上げてしまったが、この一見合理的な考え方が大間違いと今朝発覚した。ちょっと大問題系の騒ぎじゃない。だって、今日の昼にはバイクを返しに行くんだから、それまでにガソリンを空っぽにしておかないと、なんか損した気分になるじゃん。あっちゃ～、そりゃ、重大な見落としだ。

そんな意味もなくメソトの街中をグルグル回って、ガソリンを消費するくらいなら、どこにあるかはっきり分からない難民キャンプを目暗滅法に探すほうがいいって考え方もあるが、バカか！ 人殺し！

いいかい、今日の昼12時までに、バイク屋さんに戻らないと人質のパスポートは消されるんだぞ。小卒でも知ってるだろ、走れメロスっていうエロ話くらい、そのバイク版だと思えばいいさ。

別にそんな必死こいて探さなくてもいい難民キャンプを追い求めた結果、バイク屋さんから遠く離れた場所で時間切れ、しかもガソリン切れ、さよなら哀れパスポートちゃん、当然難民キャンプは発見できず、そんなバイク版メロスは自暴自棄になってピンサロに入り浸るのであった、このドエロスめ！ めでたしめでたし、チャンチャン。

よしんば、超偶然、難民キャンプを早々に発見し、返却時間の昼12時ギリギリにバイク屋さんに戻って来れて、ちょうどガソリンもキレイさっぱりなくなって、パスポートちゃんと再会できたたとしてしよう。

ん、まあ、この場合は何の問題ないが、こんなトントン拍子でうまくいくほど人生甘くねえんだよ、少なくとも俺の人生はそこらのそんじょの甘ちょろい人生みたく、ちょっと頑張れば、すぐに目に見える形で報われちゃうのと違って、どんなに激しく頑張ってもトントン拍子なんてありえない厳しい人生なんだよ、ここぞってときにぜってえ宇宙人に邪魔されるのが相場。

という理由で、アレこと、「明日こそは朝イチで難民キャンプを絶対目指すと宣言」はしばし延期して、グルグルとメソトの街中を回っているわけでありまして、自分。あんまグルグル回ったせいで、小腹がすいてきた。

通り過ぎた焼き鳥の屋台からいい匂いがした。慌てる必要はない。たまには目的があってグルグルするのもいいもんだ。お預け状態でグルリと一周してから、ようやく買った焼き鳥（10B）はおいしかったなあ。

だもんで、またグルリと一周してきて、また焼き鳥（10B）を。ったく金がかかってしょうがないな、グルグルガソリン消費活動も。

もちろんバイク屋の前も何度も通った。早1周目から気付いたバイク屋の親父は「チキショー、俺のバイクをグルグルまわしやがって、早く返せ、ガソリン残して！」という宇宙人顔をしてたが、まだだよ～って涼しい顔して、これ見よがしにグルグル回してやったぜ。誰がお前なんかガソリンをちょっとでも残して、返してやるもんかい、宇宙人のくせに知ってたからな。

12時、努力の甲斐があり、返却時間までに何とかガソリンをほぼ空にすることができた。この働き蜂！ エコノミックアニマル！ 俺は孤独な戦いを決してやめない。日本人がエコノミックアニマルと言われなく日まで、朝から疲れた、もう帰りたいを連発してやる。

返却時間ちょうどに入り喜び勇んでバイク屋へ赴き、「コイツ、もう俺ヌキじゃ、我慢できない体になっちゃったぜ」と本当は宇宙人だから日本語も分かるバイク屋の親父にそう耳打ちし、忌まわしき鍵穴ガバガババイクを叩き返すことに成功。まあ、ガバガバ以外はなかなかいいボロバイクだったが、肝心要の穴がガバじゃあ仕方ないと心の中で思っただけなのに、バイク屋の親父が更にムツとした顔を。

ははん、そういうことか。俺はさりげなく更に思った。「この店で一番いいレンタバイクを貸してくれ」と。何も言わずに宇宙人は結構まともそうに見えるボロバイクを店の奥から出してくる。やればできるじゃんと思うと、宇宙人がニコリ。そう、いつの間にやら、俺とバイク屋の親父（←宇宙人で～す、テレパシー使いの）はテレパシーでやり取りする親しき間柄に。

その比較的まともに見えるボロバイクに跨り、バイク屋の親父の前でいきなり鍵穴に鍵をブチ込む。お、キツキツだ。更に捏ね繰り回して、また走行中に落ちないか確かめただけなのに、宇宙人慌ててやんの。ざまあみさせ、今までの仕返しだ。高い銭だけ取っておきながら、ボロバイクばっか貸しやがって。小さな地球侵略的嫌がらせの数々は許せんが、明日の昼まで大事に乗りこなしてやるから安心せい（160B）。

とりあえずガソリンスタンドに行き、たっぷりガソリンをブチ込む（50B）。さ～て、満タンになったはいいが、今日は何をしようかしら、ホント毎日毎日ヒマでイヤんなっちゃうわ。「自称プロ戦場特派員、自称プロ戦場特派員」との空耳が聞こえた気がした。宇宙からの声かしら。ま、ムシムシ。

それにしても、俺はバンコクからメソトにきて、ちょっとは更生できたのだろうか。うがった見方をすれば、マックや古本屋や8番ラーメンの代わりに、バイクで時間をただただ潰している感じもする。少なくともバンコクでは半裸ではなかったことは確か。じゃあ、結論はメソトは開放的なところで大胆にさせる街ってことでいいっすよね。

そんなメソトに来て早3日半、メソト周辺はもう十分ウロチョロした、特に今日の午前中はね。せっかくメソト慣れもバイク慣れも完璧なのに、特にやることがないからって、引き続き午後もひたすらメソト周辺をウロチョロするのは、さすがにちょっともったいない気がする、いくら

大時間持ちの俺様とはいえ。

走りながら考えているとキリがない。路肩にバイクを停める。おもむろに半裸になって、タバコに火をつける。せわしくスパスパ。すぐに短くなったタバコを持つ指先だけでなく、もはや体全体がチリチリと焦げそうだ。いまや、もう完全にブラ跡みたいなカメラバック跡の日焼けは消え去り、満遍なく焦げた小麦色の上半身をバックミラーに写して、悦にいる。いっぱしの自称プロ戦場特派員に見えないこともない。精悍な。

すぐに飽きて、「もっと、こう、グッとくるような、午後からでもできる、人生にとって有意義なことでも、たまにはしてみないかい」と鏡の自分に話しかける。「でも、アレこと、「明日こそは朝イチで難民キャンプを絶対目指すとか宣言」は首尾よくもうなくなっちゃったし」、「もう誤魔化す気か。あくまでアレはちょっと延期しただけだろ」、「すべてお見通しか、さすが俺だな。そうだな、じゃあ、ささやかな目標だけど、今日は日が暮れるまで走りに走って風になり、難民キャンプを偶然発見できれば御の字ってことにしよう」、「この仕事の鬼、メソト1の仕事熱心め」、「いや〜、それほどでも」、「いや〜、それほどでも」。鏡に向き合って、互いに照れあう二人であった。今日もおメソトは日本晴れ。

さ、鏡ゴッコはこの辺にして、銭勘定でも。この瞬間この瞬間、一分単位で銭が無駄にチャリンチャリンと落ちて消えているのだ。レンタルバイクという24時間160B（約480円）、1時間あたり6.6B（約19円）、1分あたり0.1B（約0.3円）もの先行投資をもうこれ以上無駄にできない。しかも、現時点でバイク借りるの3回目だから、つまり480Bも先行投資してんだぜ。費用対効果を考えると、そろそろ目に見える形で少しでも元を取らないと。

下世話な経営者的発想ですんません。ホントはいくら、そんなレンタバイク代を費やそうが、どんなに難民キャンプを探す時間を費やそうが、ヘラヘラ笑っていなきゃいけない大物のはずなんですけどね、俺は。金だ地位だ名声だなんてクソ下世話なもんを超越し、崇高な目的を達成せんがためだけに生きているんだ。たかが一ヶ月や二ヶ月、準備期間を含めたって、たかが一年くらい無為無策に過ごしたからって、一体なんだっていうんだ。誰が文句言える。その他大勢が仲良く大行進して進む楽な道に流されそうになっても決して流されることなく、まあ流しても貰えないウンコの要素も兼ね備えているんですけどね、水じゃ流れないでっかいウンコみたいなね、ない袖無理矢理振って、若い頃の苦勞を高い金払ってバンバン先物買いしてんだ、ジャケ買いどころか、見もせずに店員さん、ココからアッチまで全部包んでくださるって心意気だい。さしずめ苦勞長者ですよ。

もっと堂々と胸張って笑っていればいいんでしょうが、どうも根が小心な小物なもんで、ついつい目先の銭勘定にすぐに釣られて、毎度馬鹿馬鹿しいつつを。

ついでに更に細かくというか、大きくいうと俺にはインチキ芸術家みたいにパトロンだスポンサーだ足長おじさんの都合のいい、それこそセックスと引き換えに大金をくれる存在がいないから、今までのなんやかんやすべて自腹の先行投資なわけですが、ちゅうちゅうたこかいな〜、ああ、もったいないもったいない、考えまい考えまい。

そういうチビデブハゲのおっさんスポンサーがいて、一生中の中の生活は保証してあげるから、好きなことをやりなさい、もちろん見返りは分かっているんだろああって。そう言われたら

、嬉々として今とそっくり同じことをするだろう。まあ、そんなのいねえから、自分スポンサー作戦中。

あ、もったいないお化けだ～！キャ～、怖いって目つぶった拍子に、前世紀にバンコクでした、とある先行投資のことをふと思い出したわけです。後、思い出したのはココが真昼間の路肩インメソトオブタイランド。

ほら、ここいらじゃ、つとに有名な話だけど、俺が日本で資金稼ぎの合間に、時間だコピー代だ面倒臭いだ精神的苦痛だを費やして集めた諸々の資料は、もしスパイ容疑でどっかの国の公安や宇宙人に捕まったとき、間抜けにも後生大事に持っている、動かぬ証拠となるので軒並み日本に残し、もちろんメモすら取ってこなかったし、基本斜め読みだから記憶にもほぼ残ってないのは先刻承知のことと存じあげます。

俺も伊達にバンコクに世紀を跨いで住んで、バンコク慣れだチェンマイウンコだバンコク戻ったら年末年始休みじゃんだたら一回しだお前は一体何がしたいんだって紙切れだマックだ8番ラーメンだ古本屋だ犬に噛まれただ美人局だばかりしていたわけじゃない。

思い出したかい、バンコク慣れとチェンマイウンコの合間あたりに、バンコクの国連難民高等弁務官事務所に電話取材を申し込み、送って貰ったFAXがあるじゃないか。確かザッとだが、難民キャンプの場所が全部書いてある簡単な広域地図があったはず。これも高いFAX代といいホテルの宿泊費を惜しげもなく先行投資したから、手に入れることができた。そして、それがようやく生きてくる。金と苦労を先払いした甲斐があったってもんだい。

ま、本当ならそれも記憶して、メモすら取らずに読んだ端からすぐに処分すべき代物だったが、大事にとっておいた。全部英語で読むのがつい面倒臭くって。というか、大事にしすぎて、すっかりその存在すら忘れ去っていた。いきおくれの箱入り娘はたしかザックの奥深く。

そうと決まれば話は早い。バイクに飛び乗り、ホテルを目指す。ごめんよ、今度こそ大事にするから、後ちょっとだけ待っててくんろと思いつつバイクを転がしていたら、こんな記憶が出てきました。メソトに来る途中検問されたときはこの紙がバレたらヤバいと思ってなかったけえ～。そのときはあえて書かなかつたけど。バレたらさすがに観念せざるを得ないなんて震えたはず。

あ、ココでもしコレが教科書に載ったり、入試問題になった場合に備えて。第二問、このときの作者の気持ちを四文字で答えなさい。という問題が出たら、正解は「おまんこ！」です。五文字ですが、問題の四文字が間違ってるんだ。とにかくこの作者は四六時中このことしか考えていません。

だからこの記憶が正しいかどうかなんて知らん。ずっと存在を忘れていたはずなのに矛盾しますが、だから何だってんだ。そんな屁理屈を気にする俺様じゃねえぞ。死ね、暇人ども！俺の方が100倍暇人だ、くやしいか、この大馬鹿野郎どもめ！

どうどう。まあ、こういうことってよくあることじゃん、人生には往々にして。こんな矛盾程度で目くじらたてて、軽々しく嘘つき呼ばわりされるなら、本当の俺はもっと大嘘つきのつくり大好き全身ヤラセ人間だから、なに呼ばわりしてくれるかしら。

相変わらずまるで文章をブクブク水増しせんがためにダラダラとどうでもいいことをエンエン

と書き連ねているようだが、これでも当初の10分の1にカットしたんだ。カットした話ほどおもしろくてねえ、なんか披露するのがもったいなくて、おいしいところは全部一人で独占して楽しむことにして、肉を切って、おいしくひとりで食べる。どうでもいいカス話ばっか残した感じ。いつもご苦労さん、残飯処理係さん。

まだ12時、セブンイレブンで昼飯(42B)を買って、一旦ホテルに帰る。ついさっき「さやかな目標だけど、今日は日が暮れるまで走りに走って風になり、難民キャンプを偶然発見できれば御の字ってことにしよう」とか言ってませんでしたか？ はあ、どうして、そういう揚げ足ばかり取るの、性生活に問題あるんじゃない？

一方その頃、俺はザックの奥をひっくり返したり、こねくり回したり。さあ、いいコだから恥ずかしがらずに出ておいで～、って猫撫で声の甲斐あり、あった！ いや～、少なくとも1ヶ月も前のことが記憶の片隅には残っていたおかげだ、ナイスプレイ！ ようやく陽の目を見ることがかない、バンコク先行投資が俄然色めきたって、まるで越後のちりめん問屋のご隠居の印籠さながら、え～い、一同頭が高い。ご老公の御前であるぞ的な効果を醸し出す。

記憶通り、地図もあった。しかしきれいに折り畳んだまま、奥深く仕舞われて、変な風に圧力があっちこっちから散々かかったのか、折り面同士が擦れ合い、ただでさえ元から粗い印刷で読みにくいのが更にかすんでいる。

なんとか目をほそめ、ひかりにかざして、見たりする(見やすくした地図がどっかにあるから、ちょっと見てこい。グズグズするな、手下ども。さ、見たな)。

ねえねえ、国境を流れる川を北上すれば、なんとかなりそうな気がしない？ だ～か～ら～、上流にちょっと北上したあたりで、右横に曲がって、チョイチョイって行けば、イイ感じい～になるんじゃない？ う～ん…。

頭がボツ～としてきたので、知恵熱かしら、それとも日射病かしら熱射病かしら。結論は昼寝の後で。あ、もう寝ちゃった。

素人さんの使用人風情のモノサシじゃ、誰？ 誰でもいいだろ、とにかくこの期に及んで昼寝とは、こやつ、いつまでグズグズすれば気が済むんだと思うかも知れない。ふん、下衆の勘繰りはやめたまえ。プロの経営者のやることにはすべて、深い深い意味があるんだよ、己にも底が見えないくらい。いづくぞ小鳥はもちろん大鳥自身が、大鳥の心の深淵を知らん。

15時、起床。変な夢を見たが、本日も一日で一番暑いときを、なんとか昼寝で乗り切れた。いつもギリギリの綱渡りだから、一番神経を使う仕事だ、昼寝は。体力も気力も復活、頭もスッキリ、さあ、一丁やったるか、軽く揉んでやるぜ。

日没まで余裕でまだ3時間はある。まあ、このくらいの時刻から、この程度のほどよくまとまった時間でやるのがちょうどいい、難民キャンプ探しにはな。ガソリン消費の観点からも見てもいうことなしだし。まあ、それでも、今日中に見つからない、に1億円、いや3億、いや5億だ！

意気揚々と部屋を出て、ホテルのフロントに鍵を預ける際、ふとホテルマンに難民キャンプの場所を聞こうかと思ひ浮かぶも、そんな安易な甘い考えにはすぐに毅然と首を横にふる。ここまでずっとひとりでやってきたのに他人に頼るなんて、今更何をおっしゃるうさぎさん。

突然ブルブルと首を振り出し、ピョンピョン言う客に、そっと目をふせるよく教育の行き届いた安ホテルマン。連泊した上に自ら正体を明かすような真似は自殺行為だ。「オウンゴール」と小声でつぶやくと、目をふせたまま何か作業しているフリをしていた安ホテルマンがビクンとする。お前も宇宙人か。メソトは宇宙人だらけ。危ないところだった。ちなみに、無学なサッカー選手どもでも知っている英語はオゲ。

道に迷った際に知り合いなり（宇宙人除く）道行く人なり（宇宙人を除く）に素直に道を聞かって言う案は、確かに悪くない。ただメソトで知り合いと言え、後はバイク屋の親父くらいだが、アイツも宇宙人だし。

道行く見知らぬ人間に難民キャンプの場所聞くのもねえ、何の関係もない素人さんを国際陰謀、宇宙陰謀に巻き込むのには抵抗がある、自称プロとして。やっぱ残るは、自力本願。神様仏様俺様。

ホテルを後にして、昨日の忌まわしき思い出がいっぱい詰まった、国境の橋方向にバイクを向ける。気は持ちようとはよく言ったもので、何やら楽勝気分。昨晚の「難民キャンプに絶対行く」みたいな熱血野郎だと元々ほぼないヤル気がキレイさっぱり消え失せるが、「偶然難民キャンプを発見できればいいや、あくまで発見するのが今日の最終目的。いきなり夕方に入るとか失礼だから。発見できても進入するのは明日の朝。ま、どうせ3時間ぽっちじゃ土台無理だろうけど」だとグッとヤル気が高まってくる。

まるで社会科見物気分、遠くに目視できるようになった因縁の国境の橋が段々大きくなるさまをのんびり眺めながら、俺を抜かして、お先に国境方面に向かうバイク仲間の背に、あの橋18ドルもするぜと大声で極秘情報を投げつける。

国境の橋とモエイ川を左に見ながら、しばらく実家に産卵しにいく腹ボテ鮭よろしく、モエイ川上流へと遡上していく。ちゃんと帰りのことも考えて、そろそろガソリン代が気になりだした頃合で、適当に右に曲がって、チョイチョイ、クネクネ、アハ〜んと走ってたら、ちょっと待った〜。

え、なに、まさかまた…。いやいや、また鍵を落としたわけでも、バイク酔いとかでもなくて、え〜と、あの〜、じゃあ、まず結論から、かしこみかしこみまおす〜、難民キャンプを目指していたから当たり前と言え、当たり前な話なんです、なんかこのままじゃ難民キャンプに無事に着いちゃう気が急にできて、ぞっとして咄嗟に危ない、これは正しい道だ。急いで道を踏み外さない、って思わず思った次第。こういうのを都合のいい虫の知らせって言うんだよね。

このまま一途に一本道を行くとホント、いかにももうすぐ難民キャンプって感じがプンプンするわけ。実際にまだ一度も難民キャンプなんて行ったことない、生粋の難民キャンプ童貞だからうまくは言えないんだけどね。

とりあえずアクセルをゆるめ、ノロノロ運転をしながら、…おい、まだか、今日はパンク系か？ さあ、いつでもこい、ばっちこ〜い。おいおい、一体どうしたんだ、いつもの威勢のいい、偉大なる宇宙の意志は。

今日に限って、宇宙の野郎、邪魔する素振りも露とも見せやがらない。このままノロノロに甘んじて、まっすぐ進んでいくと、まんまと難民キャンプを発見しちゃって、昼寝の起き抜けに自

分で自分に約束した通り、5億も払わなきゃいけないんだよ、自分が自分へ。でも、そんなに持ち合わせないよ～。

南無三。さて、どうする？ で、一体どうなった？ 宇宙人に助けてばかり貰っていたらのはびたになっちゃう。仕方なく自前で「あれ、道を間違えたか。迷子になってもうた。さっきのところを右じゃなく左だったかな」なんて棒読みで、世界中の人に「如何にもわざとらしい、ちょっとしたヤラセ迷子を自作自演で演じきる小器用さが、小憎いね」と思われても仕方ない、不審な行動を取り始める。

その一部始終を再現。急なUターン、舞う土埃、急発進で慌てて来た道をすたこらさっさと引き返す。この間、約3秒。その顔はあまりの恐怖でひきつっていたと言うが真贋のほどは、さて、いかに。

ですから決して、ビビったわけではないと言い訳するつもりはないですが、てか、別に全然ビビったてのが理由でいいんです、この方が理解しやすいし、面倒臭くなくていい。

とりあえず公式理由は「辿り着くはずのないたかが難民キャンプに間違っただけで到着しそうなことに心底ビビった」でいいですよ。

さて、ここからは、真実を追究する自称プロ戦場特派員の悲しき習性で、このときの不可解な気持ちを明らかにしたい。

まず第一に、難民キャンプを一目見るのに何の危険もない。仮に難民キャンプに潜入したとしても危険はない。難民キャンプの入口にタイ軍の兵隊がいるが、コソコソ潜り込んでいたのがバレたところで、いきなり発砲されたり、捕まって拷問されるわけでもない。袖の下をちょこっと渡せば、「こら、もうこんなところに、黙って来ちゃいけないぞ」でお仕舞いだらう。

タイ軍の兵士に見つからなければ、女子供老人ばかりの難民キャンプは戦場ではないから、怖いものなし。物陰から狙撃されたり、そこら中に地雷が埋めてあるわけでもない。たまに、タイ側にある難民キャンプに、越境したビルマ軍が襲撃してくることもあるみたいだが、それも主に真夜中の話。よかった～、今はまだ昼間だから。そういうことしないで、話がややこしくなるから。

じゃあ、なぜせつかく念願の難民キャンプに辿り着けそうと思った途端、慌てて引き返したのか、ちょっと迷子のふりをしてまで。

有体に申すと、もしかしたら自然と迷子になるよう最初から無意識に仕組むも、方向感覚と悪運と宇宙の意志は抜群ゆえ、本当に難民キャンプに行きそうな、いい雰囲気にしっぽりとなってきたら、いけない、まだそういうことは早いわ、不純よ、身体目当てね、そうそう、毎度毎度そうはイカの金玉！

イカの金玉とはつまり、処女がいざ、お見合い相手ともうすぐご対面となったら、いや違うな、え～と、お見合いの前に、見合い相手をあらかじめチラッと物陰からチェックしに行こうとして、もう少しでその物陰ってところで、急にブルったわけでもないのに、「私、やっぱ帰る」ばかりに慌ててすたこらさっさと逃げ出す。別にこれから見合いをするわけでも、結婚式をするわけでも、初夜を迎えるわけでもないのに。

この処女の不可解な行動とある意味、一緒の構造ですが、これだけじゃない、こんな小便臭

い娘っこと全部一緒にするんじゃないねえ。まあさ、確かに、この処女の不可解な行動とまるっきり一緒の構造だったら、どんなに分かりやすくてよかったか。自他共にすんなり納得できるから。

この処女はきっと、知り合いのお節介なおばさんが持ってきた見合い写真を一目見て、この人は運命の人じゃないと女の勘で見抜いたわけ。確かに早く結婚したいけど、あくまで運命の人と早く結婚したいだけで、誰でもいいから早く結婚したいわけじゃない。逆に、運命の人と出会えないなら、一生結婚できなくても仕方ないとまで思い込んでいる。

泣かせるねえ。今時、いるかい、こんな純情一途な娘が。お前らも嫁にするなら、こういう処女と結婚しな。そして、お前らも婿にするなら、こういう俺と結婚しな。

なんの話でしたっけ？ そうそう、俺も知り合いのお節介なおじさんたちが持ってきた見合い写真、カレンを一目見て、ナチュラルボーン自称プロ戦場特派員の勘で、この戦場は運命の戦場なんかじゃないと見抜いたわけ。確かに早く戦場に行きたいけど、あくまで運命の戦場に早く行きたいだけで、どんな戦場でもいいから早く戦場に行きたいわけじゃない。そんなどんな戦場とでもよろしくやっちゃう尻軽アバズレサセ子じゃあるまいし。逆に、運命の戦場と出会えないなら、一生戦場童貞のままでも仕方ないとまで思い込んでいる。

けなげやねえ～、俺ってば。分かるかなあ、処女の複雑な乙女心ばりの、戦場童貞の複雑な少年心って代物を。複雑な戦場童貞心とでも申しましょか、咄嗟の判断というか、男子の直感で、第六感で、なんか危ない予感、いけないルージュマジック、身の危険を告げる動物的勘、野生の勘、とにかく男の勘は鋭いのよと申しましょか、なんでもいいけど、とにかくなんかいけない気がしたの。やっぱこの戦場じゃない、運命の戦場はと一瞬にして悟ったのです。行ってはいけない、一目たりとも見てはいけないと。ちっぽけな表面的な恐怖じゃなくて、もっと根源的な恐怖をヒシヒシと。

あのFAXを発見したときから。いや、もしかしたら、もっともっと前、カレンに行くことを決めた瞬間から感じていたのかも。いや～、ずいぶん遠くまで来たなあ。俗に言う、どつぼ。過剰な言葉は言い訳の証拠。

ああ、もう面倒臭い、公式も非公式もビビって引き返したでいいや。はいはい、どうせ俺は難民キャンプを見に行くのにすらブルっちゃう情けない男ですよ。もうそれで別にいいよ。それで皆さんがすんなり納得いくなら、カモンですよ。

でも、やっぱ俺だけはそんな理由だけじゃ納得できないの。しつこい、まだ言うか！ 言うよ。言うさ。言って～。このまま難民キャンプに行くと一線を越えちゃう、せっかく今まで守ってきた、男の純潔が、大事なものが、初めて捧げる相手が行きずりの難民キャンプなんかでいいのかしら、時間だけはたっぷりあるんだから、もうちょっと考えてみよう、そうしよう。

以上のような結論が出たので、胸を張って晴れ晴れした気分でバイクをターン。役者やのう～。ヒリヒリするような死ぬか生きるかの鉄火場、公営ギャンブルで小銭で勝つか負けるかしてる連中には分からない、モノホンの勝負師の勘。

ああ、もうこれ以上は、結局うまく言えないわ。ホント使えない男よ。もうほっといてよ、私の人生だもん、何をしようと勝手にしよう。ちょっとくらいわざと迷子になったからって何が悪いのよ。どうせ私はメソト迷子、人生迷子よ！

そんな悲哀こもごもをこめたテーマで、バイク乗りの迷子のテーマソングを作詞作曲しながら、ホテルへと一目散に舞い戻るのであった。夕日がマブシイぜ。

17時30分、ホテル着。部屋に入るなり、シャワーも浴びずに、二度目の昼寝に突入。何も考えないために。

20時30分、気まぐれというか、なんかそうせざるを得ない雰囲気追い込まれた気がして、じゃあ、せめて難民キャンプの姿くらい旅の思い出、旅の記念に見に行けばいいんだろなんてふざけて冗談でも言っちゃった手前、もう完全に引くに引けず、結局ついに難民キャンプを探す旅に出ざるを得なかったけど宇宙人め、本当は難民キャンプなんか着かなければいいと最初から思ってたし、でも、難民キャンプに行きたかった気持ちが別になくはないって誰かに必死に説明する夢から目が醒める。気分最悪、いつもの昼勃ちもしてないほど。濡れちゃった。寝汗びっしょり。寝起きの水シャワーをキャーキャー言いながら浴びつつ、でも、ホント今日は貞操の危機だった。危機一髪でキレイな体のままでよかったとシミジミ。バイクでいつものタイ飯屋へ行き、いつもの俺セット（58B）だけ平らげる。

21時30分、バイクで軽くメソトの街をクルクル流してから、ホテル着。最近、半裸だから洗濯が少なくて済む。日焼けヒリヒリにも水シャワーにももう慣れた。天井でクルクル回るファンの風に流されるように、紫煙と一緒に、いつもの夜がクルクルと更けていく。

2時30分、羊代わりに、陳腐な表現を数えながら、なんとか三度目の昼寝兼はじめての夜寝。

（2012年の俺タ～イム！ ついに明日、いや、明日は何もない嵐の前の静けさ日和ゆえ、明後日、メソト二大事件の二つ目が起きる。もちろん一発目も、今日起きたことなんて事件でも何でもないが、明後日の二発目は正真正銘の大事件だから、そろそろ早めに覚悟を決めておいたほうがいいぜ）。

○本日の出費、「計算するのが面倒臭いから、各々で適当にしといてよ」B。ついでに一日の流れも「いちいちうっとうしいから誰か簡単にまとめといて」ジャ～。

『12年前日記 2000年2月1日(火)』

<http://p.booklog.jp/book/43733>

著者：山田夫妻

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/yamadafusai/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/43733>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/43733>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.